

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
 期末配当金 3月31日
 受領株主確定日
 中間配当金 9月30日
 受領株主確定日
 定時株主総会 6月
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の管理機関
 同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 ☎ 0120-232-711 (東京)
 ☎ 0120-094-777 (大阪)
- 単元株式数 1,000株
 公告の方法 電子公告により行う

公告掲載URL
<http://www.xcat.co.jp/ir-info/electronicnotification/index.html>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きに関しましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



<http://www.xcat.co.jp/ir-info/>

当社IRサイトにおいて、最新のIRニュースから業績・財務情報をはじめ、詳細なIR情報を開示しております。是非ご覧ください。



USER X MAKER
 SOCIETY X COMPANY
 HARD X SOFT
 HEART X TECHNOLOGY



Harmonize Heart and Technology

第40期 株主通信

2012年4月1日～2013年3月31日

Contents

クロスキャット40年の成長の軌跡 ……	1	主要経営指標 ……	7
ごあいさつ ……	3	業種別売上構成 ……	8
中期経営計画 ……	4	NEWS ……	9
当期の概要 ……	5	会社概要/株式の状況 ……	10
来期の見通し ……	6		



クロスキャット40年の成長の軌跡

設立以来、世の中のニーズに応える数多くのシステムを開発し、業界とともに成長。
 現在では、システムの企画から運用までワンストップで担うシステムインテグレーターとして歩んでいます。
 これからも企業理念である“心技の融和”をモットーにお客様に満足していただける“ビジネスパートナー”
 であり続けるよう努力してまいります。

社名の由来

<X>は、CROSS、つまり「交差」を意味します。「テクノロジーとハート」、「ユーザーとメーカー」、「ハードとソフト」、そして「社会と会社」との交差を示す言葉として、さらには、可能性のある未知数を示す意味を含めてシンボライズしました。
 交わる接点の●印は調和と融和を意味し、そこにもう一つ●印を添えることによって、優しさのある猫の眼と共に、時代を見る眼を併せ持つ企業であることを表現しました。
 <CAT>は、Computer Application Technologyの略称。先進性及び技術、知性を表すために、<X>に連動させ、シャープでユニークなデザインにしました。コーポレートカラーは、親近感と調和を意味する「グリーン」を基調色とし、知的でモダンなイメージの「黒」をポイントカラーとして起用しました。

1973 制御系ソフトウェア開発事業を開始

汎用系コンピュータ事業へ展開

SIサービス領域を拡大し
企業体質を強化

BIやクラウドビジネスなど
新たなビジネスを展開

2013 さらに成長と飛躍を
目指して

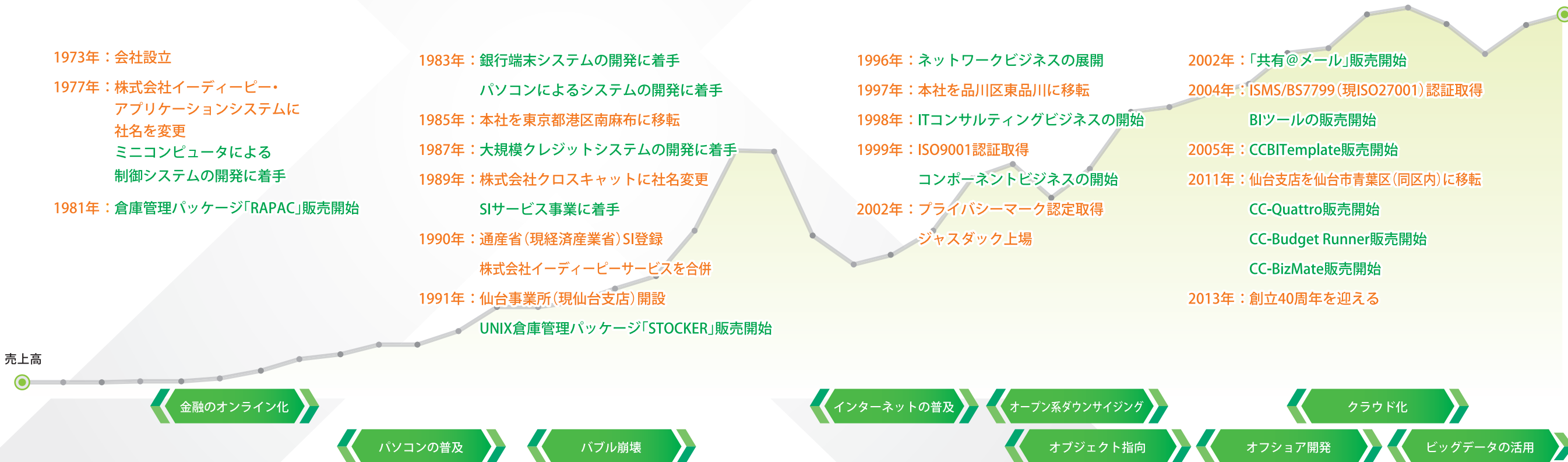
- 1973年：会社設立
- 1977年：株式会社イーディーピー・アプリケーションシステムに社名を変更
ミニコンピュータによる制御システムの開発に着手
- 1981年：倉庫管理パッケージ「RAPAC」販売開始

- 1983年：銀行端末システムの開発に着手
パソコンによるシステムの開発に着手
- 1985年：本社を東京都港区南麻布に移転
- 1987年：大規模クレジットシステムの開発に着手
- 1989年：株式会社クロスキャットに社名変更
SIサービス事業に着手
- 1990年：通産省(現経済産業省)SI登録
株式会社イーディーピーサービスを合併
- 1991年：仙台事業所(現仙台支店)開設
UNIX倉庫管理パッケージ「STOCKER」販売開始

- 1996年：ネットワークビジネスの展開
- 1997年：本社を品川区東品川に移転
- 1998年：ITコンサルティングビジネスの開始
- 1999年：ISO9001認証取得
コンポーネントビジネスの開始
- 2002年：プライバシーマーク認定取得
ジャスダック上場

- 2002年：「共有@メール」販売開始
- 2004年：ISMS/BS7799(現ISO27001)認証取得
BIツールの販売開始
- 2005年：CCBITemplate販売開始
- 2011年：仙台支店を仙台市青葉区(同区内)に移転
CC-Quattro販売開始
CC-Budget Runner販売開始
CC-BizMate販売開始
- 2013年：創立40周年を迎える

売上高



金融のオンライン化

パソコンの普及

バブル崩壊

インターネットの普及

オープン系ダウンサイジング

オブジェクト指向

クラウド化

オフショア開発

ビッグデータの活用

「お客様に感動を！」をスローガンに、さらなる成長ステージを目指します。

代表取締役会長
牛島 豊



代表取締役社長
井上 貴功



心技の融和

企業理念

クロスキャットは、知識・技術・創意という知的要素である『技』を高め、お客様には『心』で対応する。つまり『心技の融和』をモットーとして社会に貢献します。

技術と感性

経営理念

私たちは、企業理念にある『心』の本意は誠意であり、時には意欲・忍耐・信念をも包含すると考えます。従って、どんな困難な局面においても『ハート』を失わないよう努めます。私たちは、先進的なアプリケーション開発技術を、多様な運用のノウハウを駆使し、ユーザーへの総合的かつプロフェッショナルなサービスの提供に努めます。私たちは、常に時代を見る目と、みずみずしい感性を持ち、世のトレンド、環境にフレキシブルな対応ができるよう努めます。

Brights 2014 Vision



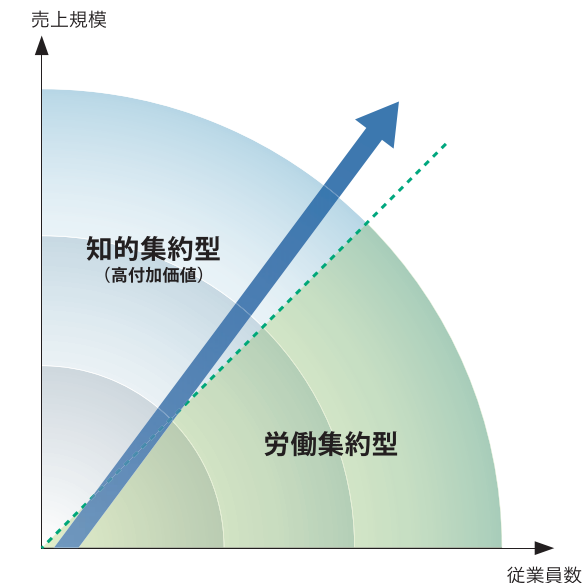
情報インフラの高度化とともに情報システムの重要性が高まるなか、当社は、顧客起点のITサービス企業として更に成長していくために中期経営計画「Brights 2014 Vision」を進めております。

重要な5つの施策は次の通りです。

「成長エンジンの強化」としてBIやクレジットなどの得意分野の強化とともに新規事業の開拓に取り組みます。また、M&Aやグローバル展開を視野に成長を目指します。

「営業の変革」として、顧客志向マーケティングを強

Next Stageへ向けて



化し、顧客価値の向上に貢献してまいります。

「開発プロセスの変革」として、PMOによるマネジメント強化に加え、CMMIに基づくプロセス改善に取り組み、品質と生産性向上を目指します。

「人材の育成」として、技術・業務スキルおよびビジネススキルの向上により顧客に信頼されるプロフェッショナル人材の育成に努めます。

「経営基盤の強化」として、予算管理プロセスの高度化を図り、収益率の向上と財務基盤強化を進めます。

当期の概要

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。ここに第40期(2012年4月1日～2013年3月31日)の事業をご報告いたします。

当期の日本経済は、震災の復興需要、さらには昨年12月の政権交代を機に円安と株価上昇が続き、景気回復への期待感が大きく膨らみました。その一方で、欧州の債務危機や新興国経済の減速など、不透明な状況も続きました。情報サービス業界につきましては、クラウド化やビッグデータ活用などで情報化投資の重要性は高まっているものの、投資費用は開発の

オフショアなど抑制傾向が続きました。

こうしたなか、当社は中期経営計画「Brights 2014 Vision」の初年度として、既存顧客へのきめ細かい提案活動や新規顧客の開拓などを積極的に行いました。その結果、特に金融と官公庁分野が順調に推移したことで、当期は売上高77億68百万円(前期比3.0%増)、営業利益3億8百万円(前期比17.0%増)、経常利益3億15百万円(前期比13.5%増)、当期純利益1億84百万円(前期比54.0%増)と、前期比で増収増益を達成しました。

来期の見通し

情報システムの重要性が高まり、商談も増えつつある機会をとらえ、当社は、組織再編成によりスピード感ある経営を推進してまいります。また、新事業企画部署を設立し、新たなサービスメニューへの展開を図ります。

営業活動においては、戦略領域における既存顧客とのビジネス拡大および、自社製品の拡販、アライアンス強化により顧客獲得を進め業容の拡大を図ります。さらに、PMOによるマネジメント強化に加え、CMMIによる開発プロセスの変革により収益率の改

善に取り組むことで、来期(第41期)の業績見通しは、売上高81億円(前期比4.3%増)、営業利益3億70百万円(前期比20.1%増)、経常利益3億70百万円(前期比17.4%増)、当期純利益2億円(前期比8.6%増)を目指します。

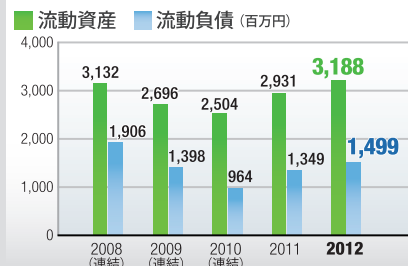
財務ハイライト



金融および官公庁分野が伸張し、増収増益となりました。



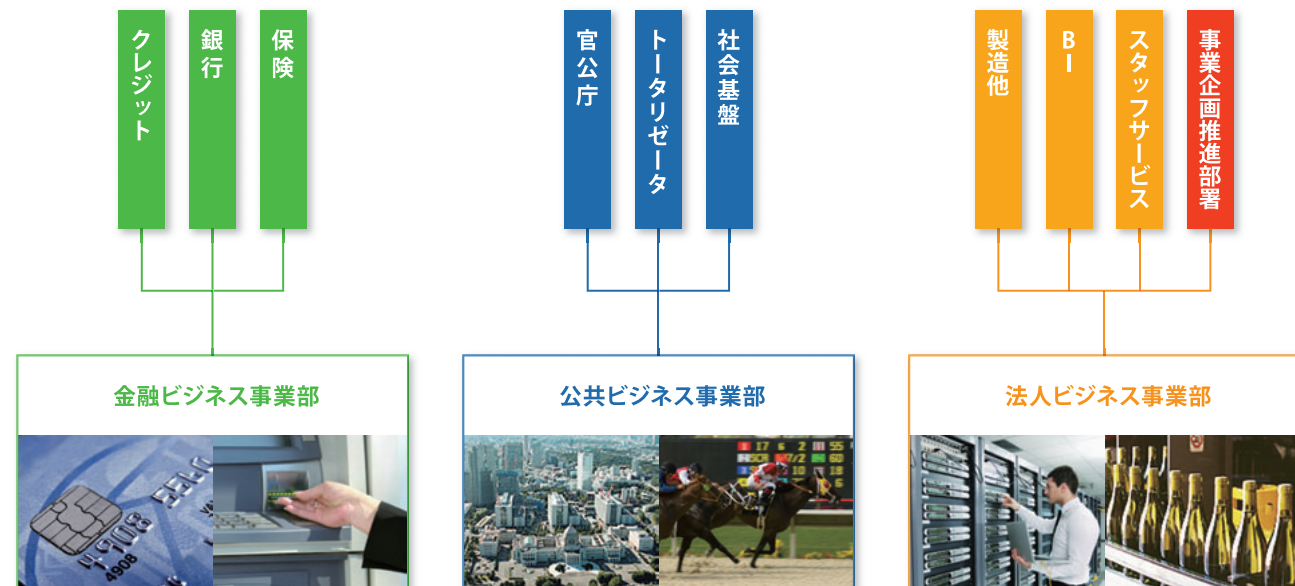
当期純利益率は、売上高の伸長、継続的な経費削減効果により、0.8ポイント改善しました。



流動資産、流動負債ともに増加しました。

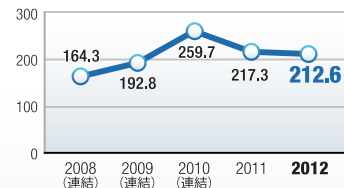


総資産、純資産ともに増加しました。



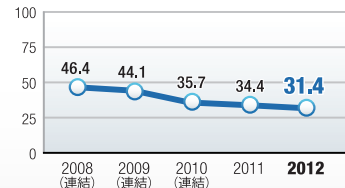
主要経営指標

流動比率 (%)



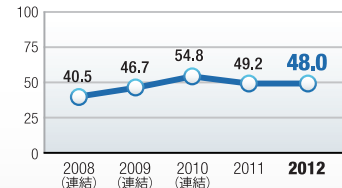
資金の流動性を示す指標。当期は減少しましたが、200%以上と高い水準にあります。

固定比率 (%)



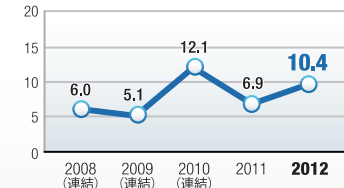
固定資産をどの程度自己資本でまかなっているかを示す指標。当期は前期比3ポイント改善しました。

自己資本比率 (%)



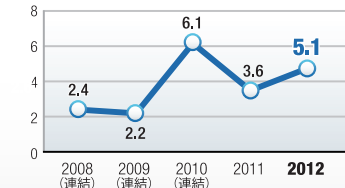
総資産に占める自己資本の割合を示す指標。当期は、前期より減少しましたが、高水準にあります。

ROE (%)



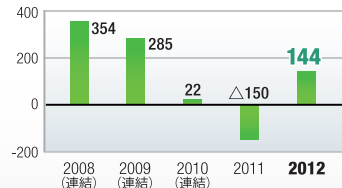
株主資本を使って上げた利益を示す指標。当期は前期比で3.5ポイント改善しました。

ROA (%)



総資産に対する利益率を示す指標。当期は前期比で1.5ポイント改善しました。

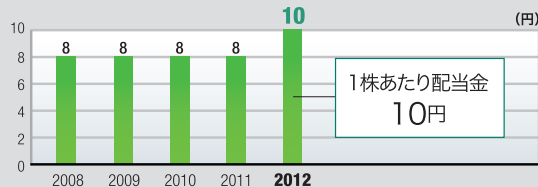
フリー・キャッシュ・フロー (百万円)



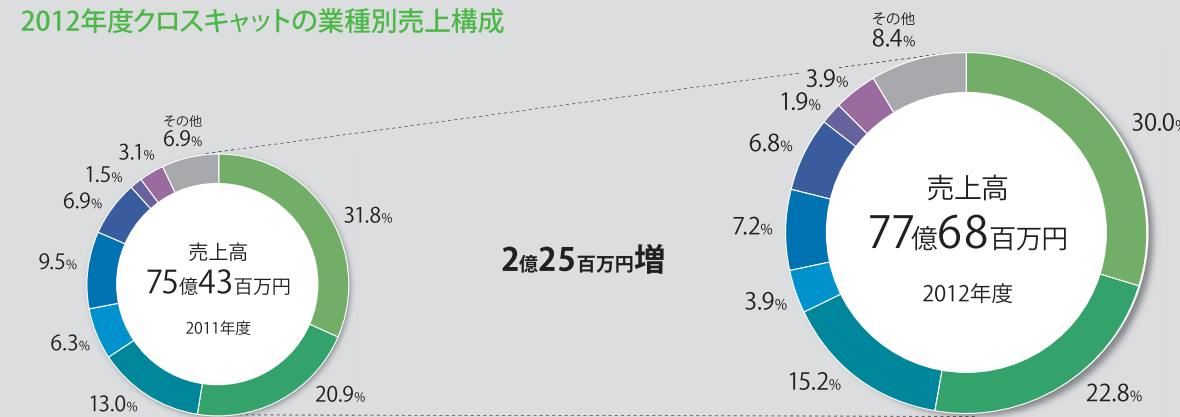
企業活動により残ったキャッシュ・フロー。当期は、純利益や売上債権の増加などにより、前期と比べ大きく改善しました。

配当について

利益配分については、将来の展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、株主様への利益還元を継続的に実施していくことを基本方針としています。当期は、創立40周年を迎え、期末配当金は、普通配当8円に2円の記念配当を加え10円となりました。



2012年度クロスキャストの業種別売上構成



クロスキャストは、クレジット、金融を中心に、さまざまな分野へ事業を展開。“独立系の情報サービス企業”の強みを活かし、幅広い視点と柔軟な発想で、顧客のニーズに応えています。

クレジット 23億31百万円

当社はクレジットの進化とともに、20年以上にわたり数多くのシステム構築(会員の与信や各種提携カード、CD・ATM業務など)を積み重ねてきました。そのなかでもVISAカードやマスターカードなどの“国際ブランドカード”と呼ばれる分野では優れた技術を保有しています。私たちの暮らしに深く浸透しているクレジットカードは、これからも、ETC決済、IC決済、ネット決済…と決済方法の多様化によって成長していくと見込まれています。

金融 17億74百万円

クレジット分野とともに“コア領域”の両軸を担う金融分野では、「銀行」「保険」向けのシステムを構築しています。銀行システムでは、対外系制御を中心に業務システムの構築からシステム保守までを手掛け、保険においても大規模インフラ構築を得意分野として、高品質なソリューションを提供しています。

官公庁・自治体・公共事業 11億77百万円

当社は、政府の新IT戦略の柱である“電子政府”の実現の一翼を担い、全国規模のインフラ整備やシステム保守を手掛けてきました。また、ガス会社の営業システムなども高い評価をいただいています。近年では、当社独自で入札・落札した開発案件を高品質で納入し、さらなる実績を積み上げています。

公営競技 2億99百万円

競馬、競輪、競艇、オートレースなどの「公営競技システム」の開発に30年以上携わり、幅広いノウハウを蓄積。投票系から情報系までの公営競技運営システムを提供しています。

通信 5億62百万円

通信会社が提供するネットワークが正常に動作するように24時間・365日の監視をし、故障時の即時対応などで通信会社からの信頼を得ています。また、携帯電話会社の顧客管理システムの開発、携帯電話で使用するネットワークシステムのインフラ構築にも取り組んでいます。

製造 5億24百万円

食品・飲料の販売・マーケティング・経営管理などの“戦略情報”に加え、生産工場における“品質管理情報”を提供し、企業活動を支えるシステムを開発。また、カーナビゲーションシステムの開発にも参画しています。

流通 1億44百万円

各種卸業の販売管理システムや調剤薬局向けシステムを開発しています。

報道出版 3億4百万円

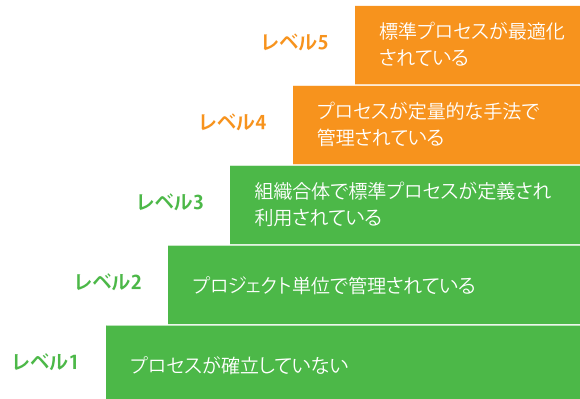
TV対応システムを主とし、さらに営業を支援するシステムを開発しています。

▶ 単元数を変更いたします

2013年7月1日から単元株式数を1,000株から100株に変更します。当社株式の流動性を向上させ、投資家層の拡大を図るためです。なお、この変更に伴う株主の皆様への実質的な影響はありません。

▶ CMMIへの取り組み

Capability Maturity Model Integrationの略で、国際標準的な指標となるソフトウェア開発プロセスの能力成熟度モデルです。組織として体系的にプロセス改善に取り組むことで、効果的なプロセスと安定した品質の開発が可能となります。2013年度には、5段階のレベル3の達成により品質と生産性の向上を目指しております。



▶ 商品紹介

国際ブランドソリューション

Crosscat Creditcard Currency exchange Component

CC-Quattro
シーシークアトロ

クレジットシステムの国際ブランド業務に特化したソリューション。クレジット業界セキュリティ基準PCIDSSに準拠した国際ブランドシステムの導入期間の大幅短縮と運用費用の大幅削減を実現。

予算管理ソリューション

CCBI Template

CC-Budget Runner

バジェットランナー

中堅企業向け経営管理サポートソリューション。
予算業務に特化し、導入コスト、運用負荷の低減を実現。

SaaS型勤怠管理システム

Windows Azure Platformソリューション

CC-Biz Mate

シーシーbizメイト

クラウド対応の勤怠管理システム。
モバイル端末からの申請、業務の予定・実績管理、災害時の連絡システムと機能が充実。

会社概要

商号 株式会社クロスキャット(証券コード2307)
設立 1973年6月
資本金 4億59百万円
売上高 77億68百万円
事業内容 システムソリューション
スタッフサービス
従業員数 531名
認証登録 ISO27001認証 ISO9001認証
プライバシーマーク認定 一般労働者派遣事業
有料職業紹介事業 電気通信事業

事業所

本社 〒140-0002 東京都品川区東品川一丁目2番5号
NOF品川港南ビル
TEL:03-3474-5251(代表) FAX:03-3474-5085
仙台支店 〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院二丁目
1番65号 花京院プラザ
TEL:022-215-6661(代表) FAX:022-215-6688

役員 (2013年6月25日現在)

代表取締役会長 …… 牛島 豊 監査役 …… 遠藤 正
代表取締役社長 …… 井上 貴功 監査役 …… 清水 裕
取締役常務執行役員 …… 佐藤武次 執行役員 …… 飯野 貴博
取締役執行役員 …… 前田耕司 執行役員 …… 伊藤 隆
取締役執行役員 …… 三嶋峰雄 執行役員 …… 中村 雅彦
常勤監査役 …… 田丸俊次 執行役員 …… 増田雅己

株式の状況

発行可能株式総数 …… 35,800,000株
発行済株式の総数 …… 9,210,960株
株主数 …… 791名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
佐藤 順子	950,510	10.31
クロスキャット社員持株会	897,000	9.73
尾野 貴子	777,160	8.43
牛島 豊	444,000	4.82
アキコイソダ	400,000	4.34
小野田 亜紀	362,000	3.93
大久保 尚子	275,000	2.98
田崎 冬子	270,000	2.93
並木 豊	267,000	2.89
橋本 剛	241,000	2.61

所有者別分布

